

矢野恒夫 （幼名） 實業家。慶應元年十一月（台備前國上道郡角山村生れ）
昭和二十六年九月二十二日歿（八五—九五）。字十貞・子貞。號吟雨、
吟雨生、吟雨、浩々庵、蒼梧。第二高等中學校醫學部卒。日本生命保
險會社の診察醫を經てドイツ留學、歸朝後農商務省に入り保險業法制
定の起草に盡力、のち保険謀長となる。明治二十五年第一生命保険組
合會社を創りしむ。

著書 『新案生命保險規則』（明治二十六年二月十八日田中增藏刊、島
村利助・同支店發兌）、『蘇蘇危言』（大正八年五月十八日博文館）、
『重大なる結果—對米問題研究（附排日案と紳士協約）』（合著・岡
本四郎編、大正十二年五月二十日民友社）、『國稅改革の第一義』（昭
和十一年十月一日國勢社）、『生命保險國會議論批判』（昭和十一年十
二月十五日白崎亨一刊）、『日本國勢圖會』（昭和十二年版）（白崎亨
一共編、昭和十二年二月二十日國勢社）、『國民數表』（昭和二十七
年九月二十二日國勢社）、『蒼梧翁遺墨集』（昭和四十五年十一月一日
矢野恒夫記念會編輯）等。



蒼梧翁遺墨集